

RMON Ethernet Statistics Report Pack

ソフトウェアのバージョン : 3.1

HP OpenView Performance Insight

ユーザーガイド

2007年6月



法律上の表示

保証

HP の製品およびサービスに対する保証は、各製品およびサービスに添付された明示の保証書に記載されているものに限定されます。本書は保証を補填するものではありません。HP は本書に掲載されている技術的な誤記、誤植、欠落に対して責任を負いません。

ここに掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権

© Copyright 2003–2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

Oracle® は、米国 Oracle Corporation, Redwood City, California の米国における登録商標です。

Java™ は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルのタイトルページには次の識別情報が記載されています。

- バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- 印刷日。ドキュメントが更新されるたびに変更されます。

最新の更新の有無を確認するには、また最新版のドキュメントを使用しているかどうかを確認するには、次の URL にアクセスしてください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

製品の適切なサポートサービス契約を締結していただくことにより、更新版または最新版がお客様に送付されます。詳細については HP の営業担当までお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェアサポート専用 Web サイトをご覧ください。

<http://support.openview.hp.com/support.jsp>

HP ソフトウェアのオンラインサポートでは、対話形式の技術サポートツールに効率的にアクセスできます。サポートサイトでは次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- サポートケースの登録/トラッキングおよび拡張機能の要求
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート契約を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア利用者とディスカッションする
- ソフトウェアトレーニングの検索および登録を行う

サポートの多くでは、HP Passport へのユーザー登録とサインインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルおよび HP Passport に関する詳細は、次の URL で確認してください。

http://support.openview.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

| | | |
|----------|------------------------------------------|----|
| 1 | 概要 | 7 |
| | OVPI および Ethernet Statistics Group | 7 |
| | バージョン履歴 | 9 |
| | ネットワークノードマネージャ (NNM) との統合 | 9 |
| | レポートのカスタマイズ方法 | 10 |
| | 追加情報の入手先 | 11 |
| 2 | パッケージのインストール | 13 |
| | 円滑なインストールのためのガイドライン | 13 |
| | バージョン 3.1 へのアップグレード | 14 |
| | RMON Ethernet Statistics のインストール | 15 |
| | 配布されたレポートへのアクセス | 17 |
| | パッケージの削除 | 18 |
| 3 | しきい値の変更 | 21 |
| | プロパティデータをファイルに記入 | 21 |
| | Change Threshold フォームの使用 | 22 |
| | NNM にトラップを送信するための条件 | 23 |
| 4 | 分散システムのセットアップ | 25 |
| | 適切なパッケージのインストール | 25 |
| | 中央サーバーの設定 | 25 |
| | サテライトサーバーの設定 | 28 |
| | システムクロック | 28 |
| 5 | デモレポート | 29 |
| A | テーブルとグラフの編集 | 45 |
| | テーブルのビューオプション | 45 |
| | グラフのビューオプション | 47 |
| | 索引 | 55 |

1 概要

本章では、次の項目について説明します。

- OVPI および Ethernet Statistics Group
- バージョン履歴
- ネットワークノードマネージャ (NNM) との統合
- レポートのカスタマイズ方法
- 追加情報の入手先

OVPI および Ethernet Statistics Group

Performance Insight は、多くのソースからデータを収集し、詳細な傾向分析を実行、パフォーマンスのベースラインを管理して、使いやすい Web ベースのレポートをユーザーに提供するパフォーマンス管理アプリケーションです。次に挙げるのは、一部の OVPI 機能の一覧です。

- 分散アーキテクチャ
- 拡張のしやすさ (数千にも及ぶエージェントからのデータ収集をサポート)
- CODA/OVPA エージェントのサポート
- マルチカンパニーのセキュリティモデル
- データウェアハウジング
- 準リアルタイムレポート
- 予測
- 広範囲に及ぶ集約 (日別、週別、月別、場所別、カスタマ別)
- しきい値およびアラート
- ボトルネックの容易な識別
- キャパシティ傾向の容易な評価
- 管理のための正確でタイムリーなドキュメンテーション

RFC2821 は、RMON プロンプがコンソールマネージャと交換する統計情報と機能を定義しています。Ethernet Statistics Group は、RFC2821 で定義されているいくつかのデータグループの 1 つです。Ethernet Statistics Group のデータは、次のカウンタによって生成されます。

- ドロップイベント
- オクテット
- パケット
- ブロードキャストパケット

- マルチキャストパケット
- CRC 配列エラー
- 小さなサイズのパケット
- 大きなサイズのパケット
- フラグメント
- ジャバ
- コリジョン
- 64 オクテット未満のパケット
- 65 ～ 127 オクテットのパケット
- 128 ～ 255 オクテットのパケット
- 256 ～ 511 オクテットのパケット
- 512 ～ 1023 オクテットのパケット
- 1024 ～ 1518 オクテットのパケット

RMON Ethernet Statistics Report Pack は **OVPI** にインストールされます。このパッケージのレポートを使用して、上記のカウンタが収集している内容を簡単に確認することができます。**RMON Ethernet Statistics Report Pack** には次のレポートが含まれています。

- 1 ブロードキャスト/マルチキャストパケットの履歴分析
- 2 ブロードキャスト/マルチキャストパケットの準リアルタイム分析
- 3 パケットサイズの履歴分布
- 4 パケットサイズの準リアルタイム分布
- 5 履歴エラー
- 6 準リアルタイムエラー
- 7 ドロップイベント
- 8 インベントリレポート

履歴レポートでは、前日のパフォーマンスとそれ以前の **31** 日間のパフォーマンスを比較します。準リアルタイムレポートは、過去 **12** 時間のパフォーマンスを詳細に調べます。準リアルタイムレポートに見られるカウントと割合(パーセント)は、直近の数分以内に行われた最新のポーリングによって取り出されたデータを計算に入れています。

バージョン履歴

次の表に、RMON Ethernet Statistics に対する拡張機能の詳細を示します。

| バージョン | リリース日 | 拡張機能 |
|-------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1.0 | 2003 年 5 月 | 8 つのレポート、Sybase サポート |
| 2.0 | 2003 年 10 月 | OVPI オブジェクトマネージャのサポート |
| 3.0 | 2004 年 4 月 | OVPI 5.0 のサポート、Oracle のサポート |
| 3.0 | 2004 年 8 月 | アップグレードパッケージ (3.0) |
| 3.1 | 2007 年 4 月 | 新しい機能： <ul style="list-style-type: none">• 場所独立レポート (LIR)• [管理コンソール]>[Copy Policy Manager] をサポート• NRT レポートの上部のテーブルから割合データを削除• オブジェクトを削除するための SQL を変更 新しいアップグレードパッケージ： <ul style="list-style-type: none">• UPGRADE_RMON_EthernetStatistics_to_31.ap 次の不具合を修正： <ul style="list-style-type: none">• QXCR1000089875 |

ネットワークノードマネージャ (NNM) との統合

OVPI と共に NNM を使用している場合、OVPI と NNM を統合することで問題診断の機能を向上させることもできます。これまでは、NNM と OVPI を統合させるために、両方のサーバーにパッケージをインストールしていました。この処理が最近変更になりました。NNM と OVPI は両方とも必要なパッケージがあらかじめインストールされた状態で出荷されているため、パッケージをインストールする必要がなくなりました。パッケージをインストールする代わりに、NNM サーバーで統合スクリプトを実行し、OVPI で統合ウィザードを起動します。

NNM と OVPI が統合されている場合、またはこれから統合する場合は、RMON Ethernet Statistics に付属する **Thresholds** サブパッケージを必ずインストールしてください。

Thresholds サブパッケージをインストールすると、**Thresholds** モジュールは OVPI データベースのブロードキャスト/マルチキャストしきい値を監視し、違反が見つかった場合に何らかのアクションを行うよう設定されます。デフォルトのアクションでは、NNM に違反トラップを送信します。NNM が受け取った違反トラップは NNM アラームブラウザにアラームとして表示され、NNM オペレータはこれに対して OVPI レポートを起動します。

Thresholds モジュールの設定は必要ありません。違反トラップに対してアクションを定義したり、宛先を指定する必要はありません。ただし、カテゴリ、重要度、および宛先のパラメータは随時変更できます。これらのオプションの詳細は『**Thresholds Module User Guide**』（英語）を参照してください。

レポートのカスタマイズ方法

グループフィルターの適用、パラメータや表、グラフの編集、カスタムプロパティデータ（カスタマや場所）のインポートなど、このパッケージ内のレポートをカスタマイズすることができます。サービスプロバイダなど、カスタマとレポートを共有する必要がある組織は、グループフィルターを使用してカスタマ固有のレポートを作成します。パラメータ、表、およびグラフの編集は、一時的な変更として誰でも行うことができます。

グループフィルター

レポートをカスタマと共有する場合は、カスタマ固有のレポートを作成する必要があります。カスタマ固有のレポートを作成するには、次の手順を行います。

- **Common Property Tables** を使用して、カスタムプロパティ情報（カスタマ名とデバイスの場所）をインポートする
- 特定のカスタマに関連のあるユーザー全員のためのグループアカウントを作成する
- そのグループアカウント用のグループフィルターを作成します

グループフィルターの詳細については、『Open View Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

パラメータの編集

パラメータを編集する場合は、制約を適用します。制約を適用して、レポートに不要なデータを取り除きます。たとえば、[カスタマ名]のパラメータを編集すると、[カスタマ名]フィールドに入力したカスタマ以外のすべてのカスタマのデータが消去されます。

一度に複数の制約を適用することができます。**RMON Ethernet Statistics** では、次のパラメータがサポートされています。

- カスタマ名
- デバイス
- インタフェース
- プロトコル
- 場所

リモートでレポートを表示している場合は（**Web** アクセスサーバーを使用）、レポートの右下にある[パラメータの編集]アイコンをクリックして制約を適用します。[パラメータの編集]ウィンドウが開いたら、フィールドに制約を入力し、[送信]をクリックします。

レポートビューアを使っている場合には、メニューバーから[編集]>[パラメータ値]を選択します。[パラメータ値の変更]ウィンドウが開いたら、[現在の値]をクリックします。新しい値を入力し、[OK]をクリックします。

テーブルとグラフ

制約の適用に加えて、レポート内の個々のテーブルとグラフを変更できます。これを行うには、[Edit Table] アイコンと[グラフの編集]アイコンをクリックします。レポートビューアアプリケーションを使用している場合は、オブジェクトを右クリックしてください。テーブルとグラフのビューオプションの詳細は、付録 A「テーブルとグラフの編集」を参照してください。

カスタムプロパティ情報

インタフェースに関連するすべてのプロパティ情報（インタフェースの速度、カスタマ、場所、デバイス名、および UtilThreshold）は、**Interface Reporting Report Pack** から継承されます。使用率のしきい値を変更したい場合は、ユーザー自身で作成するプロパティインポートファイルを **OVPI** に読み込ませるか、あるいは **Interface Reporting** に付属の **Change Protocol Defaults** フォームを使用します。詳細は、**第3章「しきい値の変更」**を参照してください。

追加情報の入手先

RMON Ethernet Statistics に付属するデモパッケージには、パッケージ内の各レポートのサンプルが含まれています。デモパッケージが利用可能で、完全なレポートの表示内容を見たい場合、デモパッケージをインストールしてください。デモレポートは対話形式で、選択テーブルはグラフにリンクされているため、パラメータやビューのオプションを体験することができます。

このパッケージの最近の拡張機能および既知の問題の詳細については、以下を参照してください。

- 『**RMON Ethernet Statistics Report Pack** リリースノート』

本マニュアルに関連するドキュメントには次のものがあります。

- 『**Interface Reporting Report Pack** ユーザーガイド』
- 『**Common Property Tables User Guide**』
- **OVPI Report Packs**、**CD-ROM** リリースノート、2007年7月

中心となる製品である **OVPI** のマニュアルと、**OVPI** 上で動作するレポート機能についてのマニュアルは、次の **Web** サイトからダウンロードできます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

OVPI のマニュアルは **[1. Product]** で **[Performance Insight]** を選択すると表示されます。レポートパックおよびデータパイプのユーザーガイドは、**[Performance Insight Report Packs]** の下に一覧表示されます。すべてのユーザーガイドに日付が記されています。マニュアルが改訂されて再度掲載されると、日付が変わります。改訂されたマニュアルは定期的に掲載されるので、お手持ちの **PDF** ファイルと **Web** サイトに提供されている **PDF** ファイルの日付を比較してください。新しいバージョンが **Web** に掲載されている場合は、**Web** 版の **PDF** をダウンロードしてください。

2 パッケージのインストール

本章では、次の項目について説明します。

- 円滑なインストールのためのガイドライン
- バージョン 3.1 へのアップグレード
- **RMON Ethernet Statistics** のインストール
- 配布されたレポートへのアクセス
- パッケージの削除

円滑なインストールのためのガイドライン

OVPI レポート機能には、2つの構成要素(レポートパックとデータパイプ)があります。レポート機能には、複数のデータパイプが含まれているものがあります。データパイプのインストール時に、特定の周期で特定の種類のパフォーマンスデータを収集するように **OVPI** を設定します。レポートパックをインストールすると、データパイプによって収集されたデータの要約および集約を行うよう **OVPI** が設定されます。

RMON Ethernet Statistics Datapipe をインストールすると、**OVPI** は **RMON MIB** をポーリングするように設定されます。**RMON Ethernet Statistics Report Pack** をインストールすると、**OVPI** はデータパイプによって収集されたデータを処理し、傾向分析を生成し、その分析結果を一連のレポートで表示するように設定されます。

レポートパック **CD-ROM** には、レポートパック、データパイプ、およびいくつかの共有パッケージが含まれています。**CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入してパッケージ抽出プログラムを起動すると、**CD** のインストールスクリプトはすべてのパッケージをシステムの **Packages** ディレクトリに抽出します。抽出が終わると、インストールスクリプトは、**OVPI** を起動してパッケージマネージャを開始するように促します。パッケージマネージャを使用する前に、次のガイドラインを再確認してください。

ソフトウェアの前提条件

RMON Ethernet Statistics Reporting には、中心となる製品の前提条件とパッケージレベルの前提条件の両方があります。中心となる製品の前提条件は以下のとおりです。

- **OVPI 5.2**
- **OVPI 5.2** に提供されているすべてのサービスパック

サービスパックのリリースノートには、インストールの指示を含め、各サービスパックについての情報が記載されています。パッケージレベルの前提条件は以下のとおりです。

- **Common Property Tables 3.6**

- Interface Reporting 5.2
- Interface Discovery Datapipe 2.4
- Interface Reporting ifEntry Datapipe 2.4

Common Property Tables

古いバージョンの **Common Property Tables** を使用している場合は (バージョン 3.5 以前)、バージョン 3.6 にアップグレードします。**Common Property Tables** のアップグレードパッケージのインストールは、他のアップグレードパッケージのインストールと同じですが、このアップグレードパッケージをインストールする時、他のパッケージを同時にインストールすることはできません。**Common Property Tables** のアップグレードパッケージのみインストールしてください。

分散環境での本パッケージの実行

RMON Ethernet Statistics を複数のサーバー上で分散システムとして実行する場合は、中央サーバー、すべてのサテライトサーバー、およびすべてのリモートポラーで同じバージョンの **OVPI** と、同じサービスパックを実行している必要があります。パッケージのインストールが終了したら、中央サーバーとサテライトサーバーを設定する必要があります。詳細は、第 4 章「分散システムのセットアップ」を参照してください。

バージョン 3.1 へのアップグレード

RMON Ethernet Statistics の古いバージョンを現在使用している場合は、「to_31」アップグレードパッケージをインストールして、バージョン 3.1 にアップグレードできます。手順は次のようになります。

- 1 パッケージマネージャを開始します。
- 2 **UPGRADE_RMON_EthernetStatistics_to_31** をインストールします (このパッケージだけをインストールし、他のパッケージを同時にインストールしないでください)。
- 3 インストールが終了したら、**[完了]** をクリックします。

上記の手順を行う前に、ポーリングポリシーおよびポーリンググループに関連する設定データの保存が必要になることがあります。さらに、自分で作成したデータテーブルまたはプロパティテーブルのビューを削除する必要がある場合もあります。カスタムテーブルビューを削除しなかった場合、レポートパックのアップグレード処理が失敗することがあります。

データパイプとリモートポラー

既存のデータパイプをアンインストールすると、次の情報が失われます。

- 単一のリモートポラー用のポーリングポリシー
- 複数のリモートポラー用のクローンポーリングポリシー
- カスタマイズしたポーリンググループ

collection_manager コマンドや **group_manager** コマンドを使うと、既存のポーリングポリシー設定やカスタマイズしたポーリンググループをエクスポートすることができます。

ポーリングポリシー設定のエクスポート

お使いの環境にリモートポーラー用のポーリングポリシーが含まれている場合には、`collection_manager` コマンドを使って、既存のポリシー設定をファイルにエクスポートしてください。

UNIX: `trendadm` ユーザーでログインし、次のコマンドを実行します。

```
cd $DPIPE_HOME
./bin/collection_manager -export -file /tmp/savePollingPolicy.lst
```

Windows: `Administrator` でログインし、コマンドウィンドウを起動します。OVPI のインストールディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
bin\collection_manager -export -file \temp\savePollingPolicy.lst
```

ポーリンググループ設定のエクスポート

お使いの環境にカスタマイズしたポーリンググループが含まれている場合には、`group_manager` コマンドを使って、グループを個々の `.xml` ファイルにエクスポートしてください。

UNIX: `trendadm` ユーザーでログインし、次のコマンドを実行します。

```
cd $DPIPE_HOME
./bin/group_manager -export_all -outfile /tmp/savePollingGroups
```

Windows: `Administrator` でコマンドウィンドウを起動し、OVPI のインストールディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
bin\group_manager -export_all -outfile \temp\savePollingGroups
```

カスタムテーブルビュー

データテーブルまたはプロパティテーブルにカスタムビューを作成してある場合、作成したビューがレポートパックのアップグレード処理と衝突し、アップグレードが正常に行われない可能性があります。カスタムビューがアップグレード処理と衝突するかどうかは、そのビューをどのように作成したかによります。SQL を使用して作成した場合は、アップグレードは正常に行われますが、アップグレードが終了すると、カスタムテーブルビューを使用できなくなります。データパイプマネージャを使用して作成した場合は、アップグレードは失敗する可能性が高くなります。アップグレードが失敗しないようにするために、レポートパックをアップグレードする前にカスタムテーブルビューを削除し、アップグレードの完了後、再度ビューを作成してください。

RMON Ethernet Statistics のインストール

スタンドアロンシステムで `RMON Ethernet Statistics` をインストールするには、次の作業を行います。

- タスク 1: `OVPI Timer` を停止し、レポートパックの CD からパッケージを抽出する
- タスク 2: 必要なら、`Common Property Tables` をアップグレードする
- タスク 3: 次のパッケージをインストールする

- RMON_EthernetStatistics 3.1
- RMON_EthernetStatistics_Thresholds (オプション)
- RMON_EthernetStatistics Datapipe 3.0
- タスク 4:OVPI Timer を再起動する

タスク 1: OVPI Timer を停止し、レポートパックの CD からパッケージを抽出する

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は `root` でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止させ、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロール パネル] で、[管理ツール]>[サービス] を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作] メニューから [停止] を選択します。

UNIX の場合は、`root` でログインして次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer stop`

- 3 レポートパックの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。Windows では、[Main Menu] が自動的に開きます。UNIX では、CD が自動的にマウントされる場合とされない場合があります。自動的にマウントされない場合は、CD の最上位ディレクトリに移動して、`./setup` コマンドを実行します。
- 4 選択フィールドに `1` を入力し、[Enter] を押す。インストールスクリプトがプログレスバーを表示します。コピーが終わると、インストールスクリプトはパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャのインストールウィザードが開きます。

Packages ディレクトリへのコピーが終了すると、Packages ディレクトリに移動して結果を確認することができます。Packages ディレクトリには、RMON Ethernet Statistics 用および RMON_EthernetStatistics Datapipe 用に個別のフォルダーが含まれています。RMON Ethernet Statistics には、次のフォルダーがあります。

- *RMON_EthernetStatistics.ap*
- *RMON_EthernetStatistics_Demo.ap*
- *RMON_EthernetStatistics_Thresholds.ap*
- *UPGRADE_EthernetStatistics_to_31.ap*

RMON_EthernetStatistics Datapipe には、次のフォルダーがあります。

- *RMON_EthernetStatistics Datapipe.ap*

タスク 2: Upgrade Common Property Tables

RMON Ethernet Statistics には Common Property Tables 3.6 が必要です。Common Property Tables をまだアップグレードしていない場合は、アップグレードパッケージをインストールします。アップグレードパッケージをインストールする際は、他のパッケージを同時にインストールしないでください。Common Property Tables のアップグレードのみインストールしてください。アップグレードにヘルプな場合は、『Common Property Tables ユーザーガイド』を参照してください。

タスク 3: **RMON Ethernet Statistics とデータパイプのインストール**

- 1 [管理コンソール] から [ツール]>[パッケージマネージャ] を選択します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。
- 2 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 3 [インストール] をクリックします。デフォルトのインストールディレクトリを承認するか、必要であれば別のディレクトリを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。[OVPI レポートの配布解除] ウィンドウが開きます。[レポートの配布] のデフォルトを受け入れ、アプリケーションサーバー名とポートのデフォルトを受け入れます。OVPI アプリケーションサーバー用のユーザー名とパスワードを入力します。
- 5 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 6 次のパッケージの横にあるチェックボックスをクリックします。
RMON_EthernetStatistics
RMON_EthernetStatistics_Thresholds (オプション)
RMON_EthernetStatistics_Datapipe
- 7 [次へ] をクリックします。[タイプの検出] ウィンドウが開くので、デフォルトを受け入れます。
- 8 [次へ] をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。
- 9 [インストール] をクリックします。[インストールの進捗状況] ウィンドウが開きます。インストールが完了すると、インストール完了メッセージが表示されます。
- 10 [完了] をクリックして [管理コンソール] に戻ります。

タスク 4: **OVPI Timer を再起動する**

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロールパネル] で、[管理ツール]>[サービス] を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作] メニューから [開始] を選択します。

UNIX の場合は、root でログインして次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer start`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer start`

配布されたレポートへのアクセス

このレポートパックのインストール時に、[レポートの配布] オプションを有効にしました。そのため、このパッケージのレポート (およびフォーム) は、OVPI アプリケーションサーバーに配布されています。OVPI Application Server 上にあるレポートは、次の 2 つの方法で表示できます。

- OVPI クライアントアプリケーション
- Web ブラウザ

システムにクライアントアプリケーションがインストールされている場合は、[レポートビューア]、[レポートビルダ]、および[管理コンソール]にアクセスできます。システムにクライアントアプリケーションがインストールされていない場合は、Web ブラウザを使用して、レポートを表示する必要があります。

クライアントアプリケーションの詳細は、『OVPI インストールガイド』を参照してください。[オブジェクト/プロパティの管理]ビューを使用して特定のオブジェクトに関連するレポートを起動する方法など、[管理コンソール]の詳細は、『Open View Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

パッケージの削除

次の手順に従って **RMON Ethernet Statistics** をアンインストールします。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は **root** でログインします。
- 2 **OVPI Timer** を停止させ、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロール パネル]で、[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [停止] を選択します。

UNIX の場合は、**root** でログインして次のいずれかを実行します。

- HP-UX: **sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop**
- Sun: **sh /etc/init.d/ovpi_timer stop**

- 3 パッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。
- 4 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 5 [アンインストール] をクリックします。
- 6 [次へ] をクリックします。[パッケージの選択] ウィンドウが開きます。
- 7 次のパッケージの横にあるチェックボックスをクリックします。

RMON_EthernetStatistics

RMON_EthernetStatistics_Thresholds (インストールされている場合)

RMON_EthernetStatistics_Demo (インストールされている場合)

RMON_EthernetStatistics_Datapipe

- 8 [次へ] をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。
- 9 [アンインストール] をクリックします。[進捗状況] ウィンドウが開きます。削除が完了すると、削除完了メッセージが表示されます。
- 10 [完了] をクリックします。
- 11 **OVPI Timer** を再起動します。

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロールパネル]で、[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [開始]を選択します。

UNIXの場合は、rootでログインして次のいずれかを実行します。

— HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer start`

— Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer start`

3 しきい値の変更

RMON Ethernet Statistics をインストールしてレポートを配布するとき、Change Threshold フォームというフォームも配布しました。このフォームにより、オブジェクトに関連するタスクを実行できます。オブジェクトとは、デバイスとそのインタフェースすべて、あるいは個々のインタフェースです。

Change Threshold フォームは、[オブジェクト/プロパティの管理] ウィンドウの [オブジェクト固有のタスク] に表示されます。このフォームは (他のフォームとともに)、RMON プロンプトが動作するデバイスまたはインタフェースを選択するといつでも [オブジェクト固有のタスク] に一覧表示されます。

Change Threshold フォームを使用すると、ブロードキャスト/マルチキャストしきい値を簡単に変更することができます。より難しいしきい値の変更方法は、新しいしきい値を含んだファイルを作成し、次に OVPI にそのファイルをインポートさせてプロパティテーブルを更新するという方法です。

プロパティデータをファイルに記入

インポートファイルは、「最初から作成する」、「必要な属性を専用の準備データベースからエクスポートする」、あるいは「OVPI によって特定のプロパティデータを自動的に収集し、その収集したデータをエクスポートする」ことによって作成することができます。プロパティインポートファイルを最初から作成することは簡単ではないため、次の手順をお勧めします。

- 1 システムが自動的にシステム上のデバイスを検出できるようにします。
- 2 次のコマンドを入力して、OVPI から既存のプロパティデータをエクスポートします。

```
trend_proc -f RMON_EtherStats_exportdata.pro
```

- 3 修正するプロパティファイルの元としてこの結果を使用します。
- 4 修正したファイルを正しいディレクトリ (OVPI が探しに行く場所) に保存し、次のコマンドを入力してこのファイルをインポートします。

```
trend_proc -f RMON_EtherStats_importdata.pro
```

このコマンドを使用しない場合、OVPI は午前 4 時にファイルをインポートします。この時刻は、毎日の集計、毎月の集計、および予測集計が開始される前になります。デフォルトを変更しない場合、インポートコマンドは次のディレクトリからデータをインポートし、エクスポートコマンドは次のディレクトリにデータをエクスポートします。

```
$DPIPE_HOME/data/PropertyData
```

次の表では、プロパティインポートファイルのフォーマットについて説明します。ユーザー自身でこのファイルを作成している場合は、ファイルがこのフォーマットに準拠していることを確認してください。属性の順序(左から右)は、この表の属性の順序(上から下)に従う必要があります。また各属性はスペース(空白)ではなくタブで区切る必要があります。

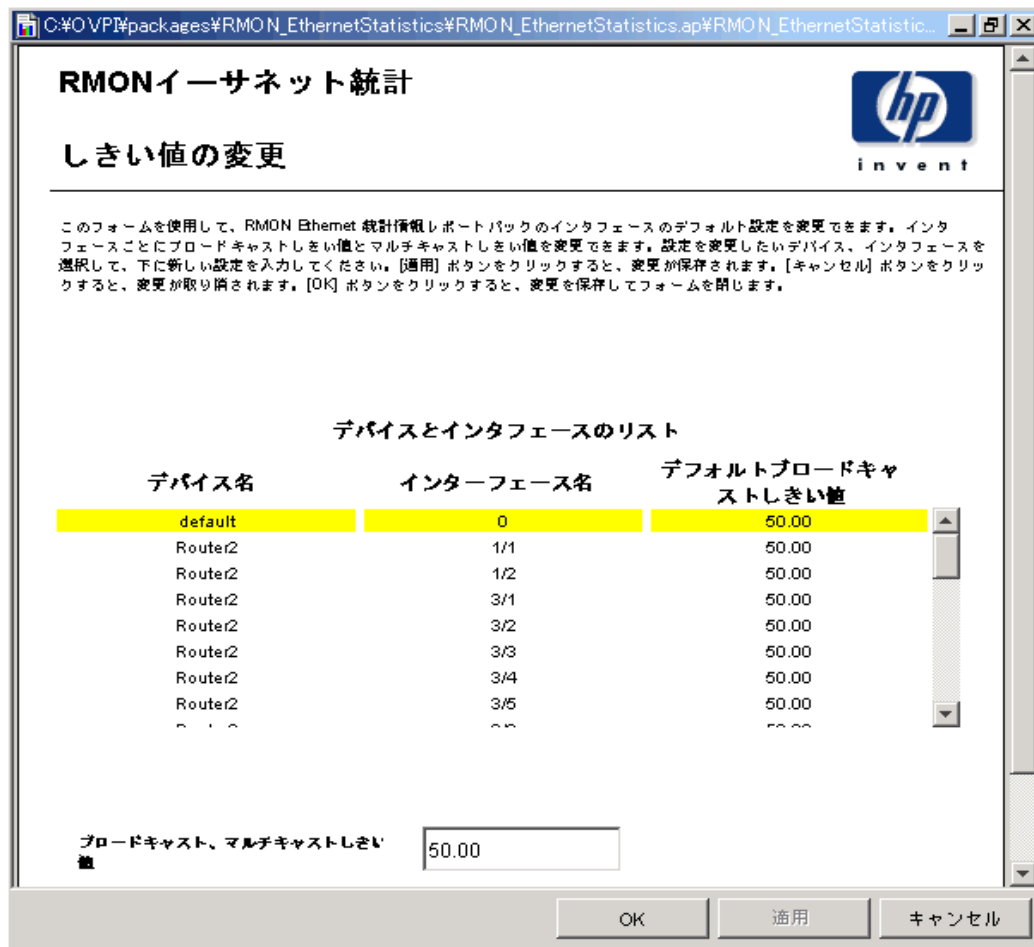
| 属性 | タイプ | デフォルト | 説明 |
|---------------------|-----------------|-------|---------------------------------------------------------|
| ノード名 | char_string,64 | N/A | デバイス名 |
| インタフェース名 | char_string,188 | N/A | インタフェース名 |
| BcastMcastThreshold | integer | 50 | ブロードキャスト/マルチキャストしきい値。ブロードキャストタイプまたはマルチキャストタイプのトラフィックの割合 |

OVPI からこのファイルをエクスポートする場合、フォーマットは正しく設定されているのでチェックする必要はありません。

Change Threshold フォームの使用

ブロードキャスト/マルチキャストしきい値のデフォルト値は **50%** です。次の手順に従って **Change Threshold** フォームを開き、ブロードキャスト/マルチキャストしきい値を修正します。

- 1 [管理コンソール]を開きます。
- 2 [オブジェクト]アイコンをクリックします。
- 3 更新したいインタフェースに移動して選択するか、デバイス上のすべてのインタフェースのしきい値を更新したい場合は、デバイスに移動してそのデバイスを選択します。
- 4 **Change Bcast-Mcast Threshold** フォームが、他の変更フォームとともに **[Object Specific Tasks]** の下に表示されます。
- 5 **Change Bcast-Mcast Threshold** フォームをダブルクリックします。フォームが開きます。
- 6 必要に応じてしきい値を更新します。
- 7 **[適用]** をクリックして変更を保存し、次に **[OK]** をクリックして変更を保存しフォームを終了します。変更を保存しない場合は、**[キャンセル]** をクリックします。



NNM にトラップを送信するための条件

RMON Ethernet Statistics 3.0 に付属のしきい値サブパッケージは、次の 2 つの条件が同時に生じた場合に NNM サーバーにしきい値トラップを送信します。

- ブロードキャスト / マルチキャストしきい値を超過している
- 使用率のしきい値を超過している

使用率のしきい値は、Interface Reporting Report Pack から継承したものです。このしきい値を修正するには、以下に示す Change Protocol Defaults フォームを使用します。このフォームと Interface Reporting にバンドルされているその他のフォームの詳細については、『Interface Reporting Report Pack 5.2 ユーザーガイド』を参照してください。

インタフェースのレポートイング
プロトコルデフォルトの変更



このフォームを使用して、「インタフェースレポートイング」レポートパックのプロトコル（インタフェースタイプ）のデフォルト設定を変更できます。未知のプロトコルの名前を変更したり、各プロトコルのデフォルトの全二重およびしきい値の設定を変更することができます。Monitor フラグを Off (0) にセットされたインタフェースタイプをポーリングしないようにシステムを設定することもできます。設定を変更したいプロトコルを選択して、下に新しい設定を入力してください。[適用] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。[キャンセル] ボタンをクリックすると、変更が取り消されます。[OK] ボタンをクリックすると、変更を保存してフォームを閉じます。

| ifType | プロトコル名 | 二重 | モニタ | デフォルト 使用率 しきい値 | Default 廃棄 しきい値 | デ エ し |
|--------|---------------------|----|-----|----------------------|-----------------------|-------------|
| 1 | other | 2 | 1 | 90.00 | 1.00 | ↑ |
| 2 | regular1822 | 2 | 1 | 90.00 | 2.00 | 2 |
| 3 | hdh1822 | 2 | 1 | 90.00 | 2.00 | 2 |
| 4 | ddn-x25 | 2 | 1 | 90.00 | 2.00 | 2 |
| 5 | rfc877-x25 | 2 | 1 | 90.00 | 2.00 | 2 |
| 6 | ethernet-csmacd | 1 | 1 | 30.00 | 1.00 | 2 |
| 7 | iso88023-csmacd | 1 | 1 | 90.00 | 2.00 | 2 |
| 8 | iso-88024-tokenBus | 1 | 1 | 50.00 | 2.00 | 2 |
| 9 | iso-88025-tokenRing | 1 | 1 | 50.00 | 2.00 | 2 |
| 10 | iso88026-man | 2 | 1 | 90.00 | 2.00 | 2 |
| 11 | starlan | 2 | 1 | 90.00 | 2.00 | 2 |

プロトコル名: ethernet-csmacd モニタ: モニタ

使用率しきい値: 30.00 エラーしきい値: 1.00 廃棄しきい値: 1.00

OK 適用 キャンセル

4 分散システムのセットアップ

本章では、次の項目について説明します。

- 適切なパッケージのインストール
- 中央サーバーの設定
- サテライトサーバーの設定
- システムクロック

適切なパッケージのインストール

分散システムで **RMON Ethernet Statistics** パッケージを実行する場合、システム内のすべてのサーバーを設定する必要があります。この作業を始める前に、次のテーブルを使用して、サーバーで正しいパッケージが実行されていることを確認します。

| 中央サーバー | 各サテライトサーバー |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| RMON_EthernetStatistics 3.1 | RMON_EthernetStatistics 3.1 |
| Common Property Tables 3.6 | Common Property Tables 3.6 |
| Interface Reporting 5.2 | Interface Reporting 5.2 |
| Interface Discovery Datapipe 2.4 | Interface Discovery Datapipe 2.4 |
| IR ifEntry Datapipe 2.4 | IR ifEntry Datapipe 2.4 |
| | RMON EthernetStatistics Datapipe 3.0 |
| | RMON_EthernetStatistics_Thresholds |
| | Thresholds Module 5.1 |

通常は、中央サーバーではポーリングは行いません。システムの中央サーバーでポーリングを行うには、中央サーバーに **RMON_EthernetStatistics Datapipe** をインストールする必要があります。

中央サーバーの設定

中央サーバーを設定するには、次のタスクを行います。

- タスク 1: データベースロールを設定してサテライトサーバーを登録する
- タスク 2: LIR を有効化する

- タスク 3: LIR マッピングを追加する
- タスク 4: 自動生成されたコピーポリシーを検証する
- タスク 5: trendtimer.sched ファイルを変更する

タスク 1: データベースロールを設定してサテライトサーバーを登録する

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [システム] アイコンをクリックします。
- 3 [OVPI データベース] フォルダーに移動してデータベースシステムを選択します。
- 4 [データベースのプロパティ] をクリックします。
- 5 [データベースロール] リストから、サテライトサーバーロールを選択します。
- 6 サテライトサーバーロールの設定に必要な情報を入力します。



新しいデータベースリファレンスを追加するには、**System and Network Administration** アプリケーションで [データベースリファレンスの追加ウィザード] を使用できます。

タスク 2: LIR を有効化する

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [システム] アイコンをクリックします。
- 3 [OVPI データベース] フォルダーに移動して中央サーバーを選択します。
- 4 [LIR 設定] をクリックします。
- 5 [LIR の有効化] チェックボックスをオンにします。

タスク 3: LIR マッピングを追加する

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [システム] アイコンをクリックします。
- 3 [OVPI データベース] フォルダーに移動して中央サーバーを選択します。
- 4 [LIR 設定] をクリックします。
- 5 [マッピングの追加] をクリックします。
- 6 [Select Satellite Server] リストから、マッピングを追加するサテライトサーバーを選択します。
- 7 [カテゴリ] データテーブルオプションを選択します。
- 8 ドロップダウンリストから [RMON Ethernet Statistics] を選択します。
- 9 **rate** データタイプを選択します。
- 10 [リストに追加] をクリックします。
- 11 さらに LIR マッピングを追加する場合は、[リストに追加] をクリックして、手順 6 ~ 手順 10 を繰り返します。
- 12 [OK] をクリックします。
- 13 [適用] をクリックします。

時間単位のデータおよび追加した各 LIR マッピングに対して、コピーポリシーが自動的に生成されます。LIR マッピングを追加したときに選択したデータタイプ (上記の**手順 9**) によって、生成されたコピーポリシーで定義されるコピーデータのタイプが決まります (一例として、生成されたコピーポリシーで定義されるコピーデータのタイプが、LIR マッピングで選択したデータタイプよりも大きくなります)。たとえば、時間単位のデータタイプが選択されている場合、日単位のデータコピーポリシーが生成されます。

タスク 4: 自動生成されたコピーポリシーを検証する

SHRMONEtherStats テーブルに対してコピーポリシーが生成され、コピータイプが正しく設定 ([プロパティおよびデータ]) されていることを確かめます。

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [Copy Policy] アイコンをクリックし、Copy Policy Manager を起動します。
- 3 SHRMONEtherStats テーブルを探し、コピータイプが [プロパティおよびデータ] に設定されていることを確かめます。

テーブルのコピーポリシーが生成されていない場合は、次の手順を実行します。

- 1 [新規コピーポリシー] アイコンをクリックするか、または Copy Policy Manager から [ファイル]>[新規コピーポリシー] を選択します。[コピーポリシーウィザード] が表示されます。
- 2 [次へ] をクリックします。[Satellite Server and Copy Policy Selection] ページが表示されます。
- 3 プルダウンリストからサテライトサーバーを選択します。このサテライトサーバーからデータが中央サーバーにコピーされます。
- 4 [シングルテーブル] を選択し、プルダウンリストから [SHRMONEtherStats] を選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。[Copy Type Selection Page] ページが表示されます。
- 6 [プロパティおよびデータ] を選択します。
- 7 [次へ] をクリックします。[概要] ページが表示されます。
- 8 概要ウィンドウの情報を確認します。情報が正しくない場合は、[戻る] をクリックして変更することができます。
- 9 [完了] をクリックします。

コピータイプが [プロパティおよびデータ] に設定されていない場合は、次の手順を実行します。

- 1 コピーポリシーをダブルクリックします。
- 2 [プロパティおよびデータ] コピータイプを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

タスク 5: trendtimer.sched ファイルを変更する

trendtimer.sched ファイルは {DPIPE_HOME}/lib/ ディレクトリにあります。ここで、{DPIPE_HOME} は OVPI がインストールされるディレクトリです。

このファイルを次のように変更します。

- 次の行を見つけてコメントアウトします。

```
1:00+25 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f
{DPIPE_HOME}/scripts/EtherStats_Hourly_Process.pro
```

サテライトサーバーの設定

次の手順に従って各サテライトサーバーを設定します。

- 1 `{DPIPE_HOME}/libtrendtimer.sched` ファイル (`{DPIPE_HOME}` は **OVPI** がインストールされるディレクトリです) を変更します。次の行を見つけてコメントアウトします。

```
24:00+5:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f
{DPIPE_HOME}/scripts/EtherStats_DMF_Process.pro
```

- 2 `EtherStats_Hourly_Process.pro` ファイルを変更する

`EtherStats_Hourly_Process.pro` ファイルは `{DPIPE_HOME}/scripts/` ディレクトリにあります。ここで、`{DPIPE_HOME}` は **OVPI** がインストールされるディレクトリです。

以下を変更します。

- 次の行を見つけてコメントを外します。

```
# begin:EtherStats_2 wait

# {DPIPE_HOME}/bin/perl {DPIPE_HOME}/scripts/IR_Performance.pl -p
  "Sat_1_EtherStats_Copy" -t hour -v start

# {DPIPE_HOME}/bin/trendcopy -t SHRMONEtherStats

# {DPIPE_HOME}/bin/perl {DPIPE_HOME}/scripts/IR_Performance.pl -p
  "Sat_1_EtherStats_Copy" -t hour -v stop

# end:EtherStats_2
```

- 3 各インタフェースが必ず 1 つのサテライトサーバーのみによってポーリングされるように、**RMON Ethernet Statistics Datapipe** のポーリングポリシーを設定します。

システムクロック

各サテライトサーバーのシステムクロックが中央サーバーのシステムクロックと同期していることを確認します。この手順は非常に重要です。分散環境では、独立した複数のマシンすべてで、リンクされたプロセスを正確な順序で実行しなければなりません。

5 デモレポート

この章では以下について説明します。

- 各レポート内容の概要 (全部で 8 つのレポート)
- 画面キャプチャ

画面キャプチャはデモパッケージから提供されます。

1. ブロードキャスト + マルチキャストパケットの履歴分析

- 前日のインタフェースあたりのパケット量
- 前日のマルチキャストトラフィックに対するブロードキャストトラフィックの割合
- 2 日間のマルチキャスト、ブロードキャスト、およびユニキャストのパケット数 (1 時間ごと)
- 過去 31 日間のマルチキャスト、ブロードキャスト、およびユニキャストのパケット数 (1 日ごと)
- 過去 31 日間のマルチキャストとブロードキャストのパケット分布
- 過去 31 日間のインタフェースの利用率

2. ブロードキャスト + マルチキャストパケットの準リアルタイム分析 (図はありません)

- 過去 12 時間のインタフェースあたりのパケット量
- 過去 12 時間のマルチキャストトラフィックに対するブロードキャストトラフィックの割合
- 過去 12 時間のマルチキャスト、ブロードキャスト、およびユニキャストのパケット数
- 過去 12 時間のインタフェースの利用率

3. パケットサイズの履歴分布

- 前日の全パケット数
- エラーを含んだ前日のパケットの割合 (パーセント)
- 前日のオクテット
- 前日の LAN セグメントの使用率
- 過去 2 日間のパケットサイズの分布 (1 時間ごと)
- 過去 31 日間のパケットサイズの分布 (1 日ごと)
- 過去 31 日間のブロードキャストとマルチキャストのパケットの割合 (パーセント)
- 過去 31 日間のインタフェースの使用率

4. パケットサイズの準リアルタイム分布

- 過去 12 時間の全パケット数

- エラーを含んだ過去 12 時間のパケットの割合 (パーセント)
- 過去 12 時間のオクテット
- 過去 12 時間の使用率
- 過去 12 時間のパケットサイズの分布
- 過去 12 時間のブロードキャストとマルチキャストのパケットの割合 (パーセント)
- 過去 12 時間のインタフェースの使用率

5. 履歴エラーレポート

- 前日のインタフェースあたりのパケット量
- エラーを含んだ前日のパケットの割合 (パーセント)
- 以下のエラーを含んだパッケージの割合 (パーセント)
 - フラグメントエラー
 - CRCAlign エラー
 - 過小サイズエラー
 - 過大サイズエラー
 - ジャバエラー
- 過去 2 日間のエラー件数 (1 時間ごと)
- 過去 31 日間のエラー件数 (1 日ごと)
- 過去 31 日間のコリジョン
- 過去 31 日間のプローブのドロップイベント

6. 準リアルタイムエラーレポート

- 過去 12 時間のインタフェースあたりのパケット量
- エラーを含んだ過去 12 時間のパケットの割合 (パーセント)
- 以下のエラーを含んだパッケージの割合 (パーセント)
 - フラグメントエラー
 - CRCAlign エラー
 - 過小サイズエラー
 - 過大サイズエラー
 - ジャバエラー
- 過去 12 時間のエラー件数
- 過去 12 時間のコリジョン
- 過去 12 日間のプローブのドロップイベント

7. ドロップイベントのレポート

- カスタマ選択一覧
- 選択したカスタマに関連付けられているデバイスの一覧

- 前日のデバイスあたりのドロップイベント
- 前日のインタフェースあたりのドロップイベント

8. インベントリレポート

- カスタマ選択一覧
- 選択したカスタマに関連付けられているデバイスの一覧
- 選択したデバイスに関連付けられているインタフェースの一覧

RMONイーサネット統計



ブロードキャスト履歴 + マルチキャストパケットの分析

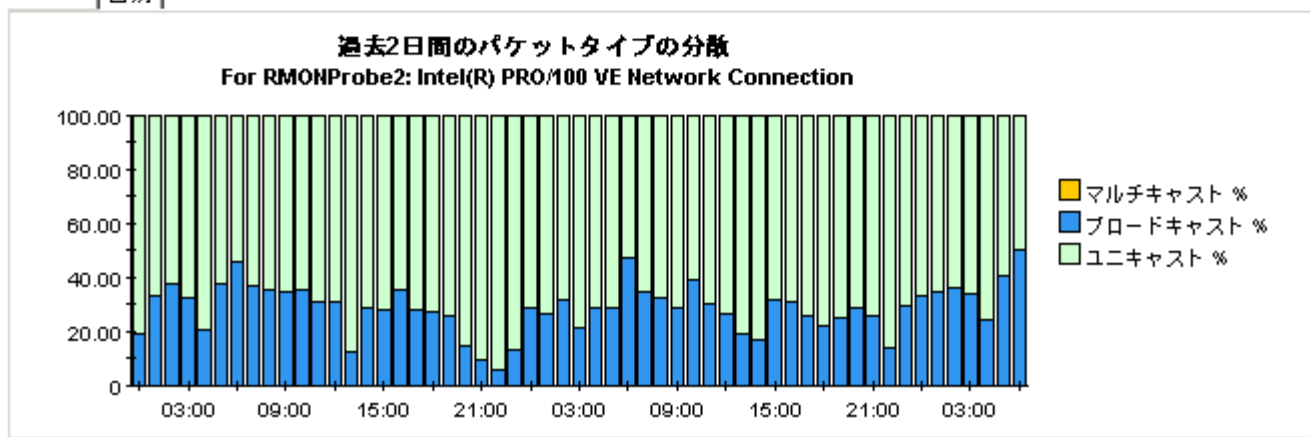
このレポートは、各インタフェースにつき1つのエントリがあります。選択テーブルのデータは、すべて昨日組み合わされたものに関連しています。タブ領域で過去何日および何時間にならっての統計を行うかを選択してグラフを変化させます。ブロードキャストおよびマルチキャストの過剰パケット(> 10%)は、ネットワークパフォーマンスに影響をもたらす場合があります。使用率(%)は、半二重のインタフェースの予別ifSpeedを使用して算出します。

昨日からのインタフェースデータ

| デバイス | インタフェース | 説明 | パケット | % 使用率 | ブロードキャスト% | マルチキャスト% |
|------------|-----------|----------------------------------|-----------|-------|-----------|----------|
| RMONProbe2 | 3 | Intel(R) PRO/100 VE Network C... | 921,093 | 20 | 26.25 | 0.03 |
| Router2 | 3/1 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 410,273 | 0 | 2.12 | 16.90 |
| Router2 | 3/8 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 767,170 | 0 | 0.00 | 3.33 |
| Router2 | 3/5 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 1,088,917 | 0 | 0.00 | 5.27 |
| Router2 | 3/6 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 710,373 | 0 | 0.00 | 3.51 |
| Router2 | FEC-3/5-8 | aggregated interface | 2,791,321 | 0 | 0.31 | 4.38 |
| Router2 | 3/24 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 825,180 | 0 | 0.00 | 100.00 |
| Router2 | 3/2 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 463,736 | 0 | 1.87 | 17.34 |
| Router1 | 1/1 | utp fast ethernet (cat 5) | 463,710 | 0 | 1.87 | 17.34 |
| Router2 | 3/23 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 672,085 | 0 | 0.00 | 100.00 |
| Router2 | 3/7 | 10/100 utp ethernet (cat 3/5) | 225,447 | 0 | 3.82 | 6.42 |

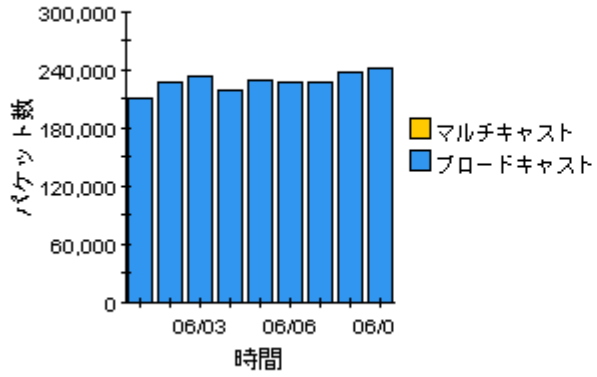
製造元 Network Harmoni
モデル Unknown
カスタム Acme
AdminStatus Up
プロトコル ethernet-esmacd
速度 100.0 Kb/s

時間別 | 日別

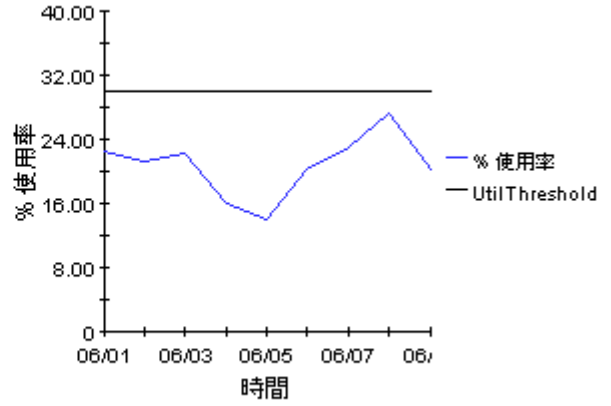




ブロードキャスト+マルチキャストパケット数
過去31日間



過去31日間の使用率(%)



RMON イーサネット統計

パケットサイズの分散履歴



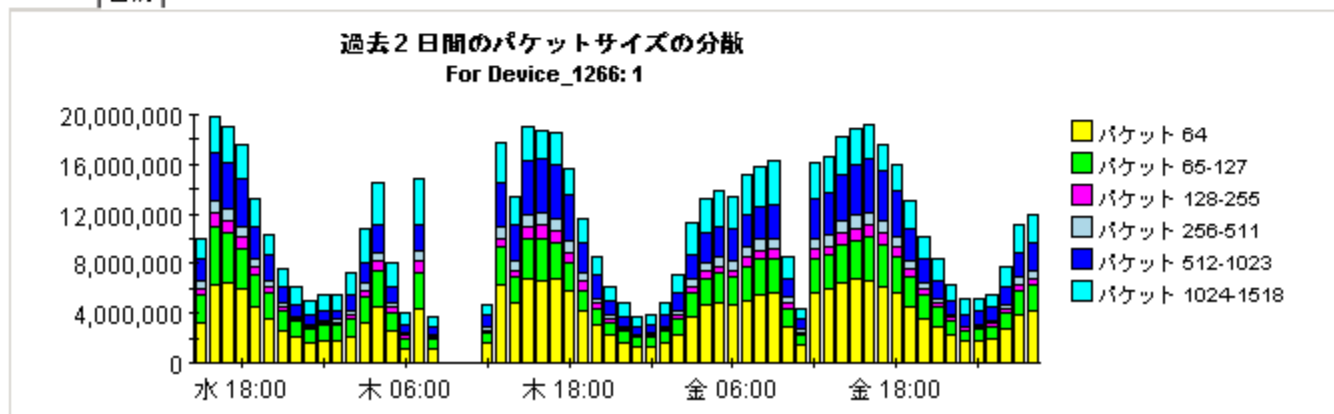
このレポートは、各インタフェースにつき1つのエントリがあります。選択テーブルのデータは、すべて昨日組み合わせられたものに関連していません。タブ領域で過去何日および何時間にわたっての統計を行うかを選択してグラフを変化させます。エラーパケット率(%)は、エラーが発生したとみなされてカウントされたすべてのパケットの割合です。使用率(%)は、半二重のインタフェースに対して予測される ifSpeed を使用して算出します。

昨日からのインタフェースデータ

| デバイス | インタフェース | 説明 | パケット | % エラーパケット | オクテット | % |
|-------------|---------|-------------------------------|---------------|-----------|----------|---|
| Device_1266 | 1 | GigabitEthernet1/1 | 285,661,849 | 0.00000 | 120.6 GB | |
| Device_1266 | 129 | FastEthernet3/1 | 247,398,123 | 0.00000 | 115.4 GB | |
| Device_1262 | 7 | Summit7iTx-Port 7 | 145,181,610 | 0.00000 | 99.2 GB | |
| Device_1289 | 25 | RMON Port 25 on Unit 1 | 158,230,014 | 0.00000 | 95.1 GB | |
| Device_1290 | 25 | RMON Port 25 on Unit 1 | 158,265,132 | 0.00000 | 95.1 GB | |
| Device_1288 | 25 | RMON Port 25 on Unit 1 | 155,187,730 | 0.00000 | 93.1 GB | |
| Device_1287 | 25 | RMON Port 25 on Unit 1 | 155,179,749 | 0.00000 | 93.1 GB | |
| Device_1293 | 13 | FastEthernet13 | 1,398,119,759 | 0.00000 | 84.6 GB | |
| Device_1282 | 11 | RMON Port 11 on Unit 1 | 213,507,666 | 0.00000 | 81.6 GB | |
| Device_1283 | 11 | RMON Port 11 on Unit 1 | 213,500,099 | 0.00000 | 81.6 GB | |
| Device_1282 | 2 | RMON Port 2 on Unit 1 | 515,516,670 | 0.00000 | 64.4 GB | |
| Device_1283 | 2 | RMON Port 2 on Unit 1 | 515,517,548 | 0.00000 | 64.4 GB | |
| Device_1300 | 113 | RMON:10/100 Port 13 on Unit 1 | 503,081,263 | 0.00000 | 62.5 GB | |
| Device_1282 | 19 | RMON Port 19 on Unit 1 | 92,284,254 | 0.00000 | 58.2 GB | |

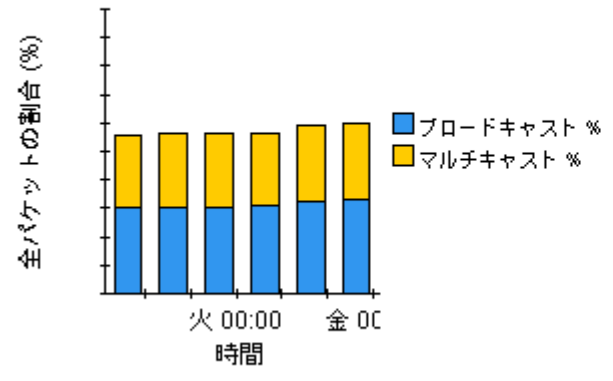
| 製造元 | モデル | カスタマ | AdminStatus | プロトコル | 速度 |
|------------------|--------|---------------------|-------------|-----------------|----------|
| Foundry Networks | Router | Customer Unassigned | Up | gigabitEthernet | 1.0 Gb/s |

時間別 | 日別 |

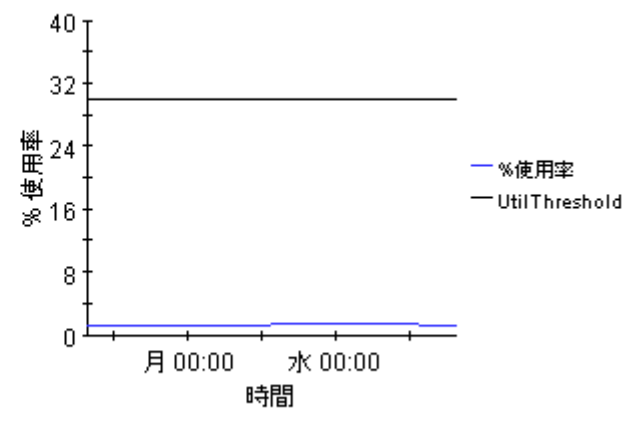




ブロードキャスト+マルチキャストパケット
過去31日間



過去31日間の使用率 (%)



RMON イーサネット統計

準リアルタイムの packetsize 分散



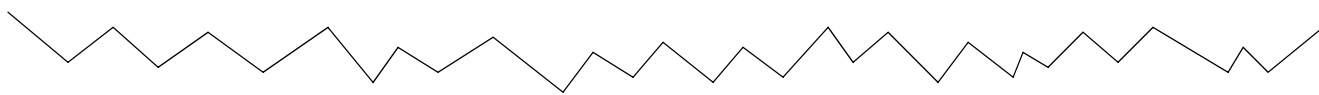
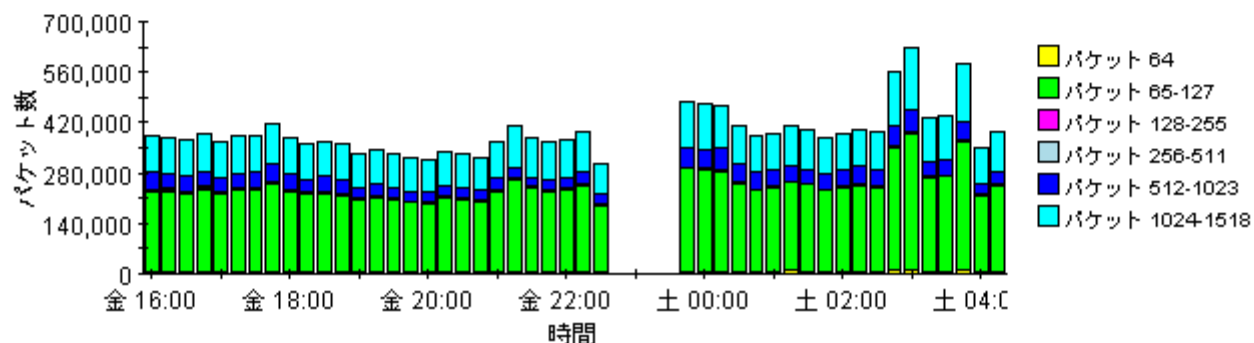
このレポートには、各インタフェースにつき1つのエントリがあり、最新のポーリングサイクルのデータと過去12時間のグラフが表示されます。エラーパケット率(%)は、エラーが発生したとみなされてカウントされたすべてのパケットの割合です。利用率(%)は、半二重のインタフェースに対して予測される ifSpeed を使用して算出します。

最新のポーリングサイクルからのインタフェースのデータ 制約を変更してリストを変更

| デバイス | インタフェース | 説明 | パケット | % エラーパケット | オクテット | % 利用率 |
|-------------|---------|------------------------|---------|-----------|----------|-------|
| Device_1262 | 10 | Summit7iTx-Port 10 | 393,619 | 0.00000 | 195.3 MB | 2 |
| Device_1282 | 10 | RMON Port 10 on Unit 1 | 384,820 | 0.00000 | 283.5 MB | 3 |
| Device_1283 | 10 | RMON Port 10 on Unit 1 | 384,635 | 0.00000 | 283.4 MB | 3 |
| Device_1244 | 10 | 10 | 267,653 | 0.00000 | 149.3 MB | 1 |
| Device_1242 | 10 | GigabitEthernet10 | 9,086 | 0.00000 | 873.5 KB | 0 |
| Device_1288 | 10 | RMON Port 10 on Unit 1 | 4,287 | 0.00000 | 504.7 KB | 0 |
| Device_1287 | 10 | RMON Port 10 on Unit 1 | 4,286 | 0.00000 | 504.5 KB | 0 |
| Device_1289 | 10 | RMON Port 10 on Unit 1 | 4,284 | 0.00000 | 504.5 KB | 0 |
| Device_1290 | 10 | RMON Port 10 on Unit 1 | 4,279 | 0.00000 | 504.0 KB | 0 |
| Device_1293 | 10 | FastEthernet10 | 4,224 | 1.60985 | 515.3 KB | 0 |
| Device_1286 | 10 | B2 | 1,629 | 0.00000 | 149.2 KB | 0 |
| Device_1298 | 10 | FastEthernet10 | 507 | 0.00000 | 51.0 KB | 0 |
| Device_1276 | 10 | Summit48i-Port 10 | 212 | 0.00000 | 18.4 KB | 0 |
| Device_1277 | 10 | Summit48i-Port 10 | 212 | 0.00000 | 18.4 KB | 0 |

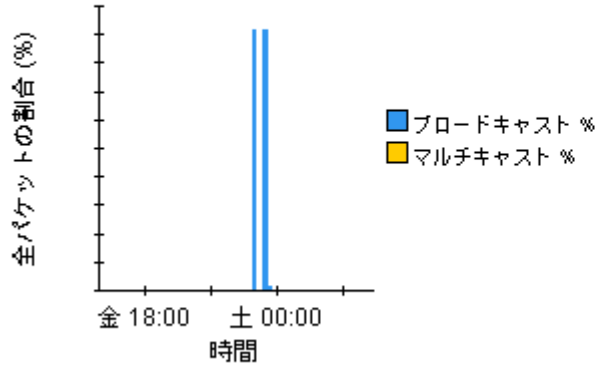
| カスタマ | AdminStatus | プロトコル | 速度 | ポーリングサイクル開始 | 所要時間(秒) |
|---------------------|-------------|---------------|------------|------------------|---------|
| Customer Unassigned | Up | ethernet-ospf | 100.0 Mb/s | 土 12 07 04:15 午前 | 896 |

過去12時間の packetsize 分散 For Device_1262: 10

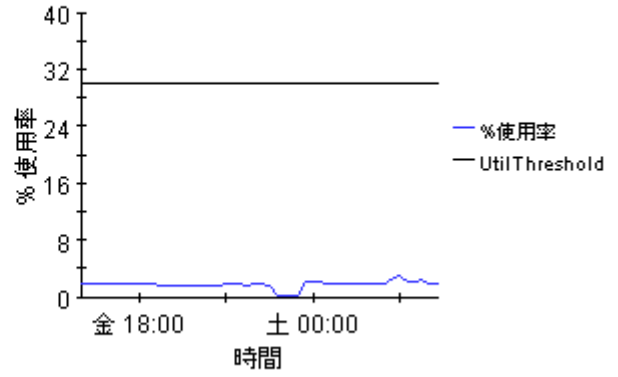




ブロードキャスト+マルチキャスト
過去12時間



% 使用率
過去12時間



RMONイーサネット統計



エラー履歴レポート

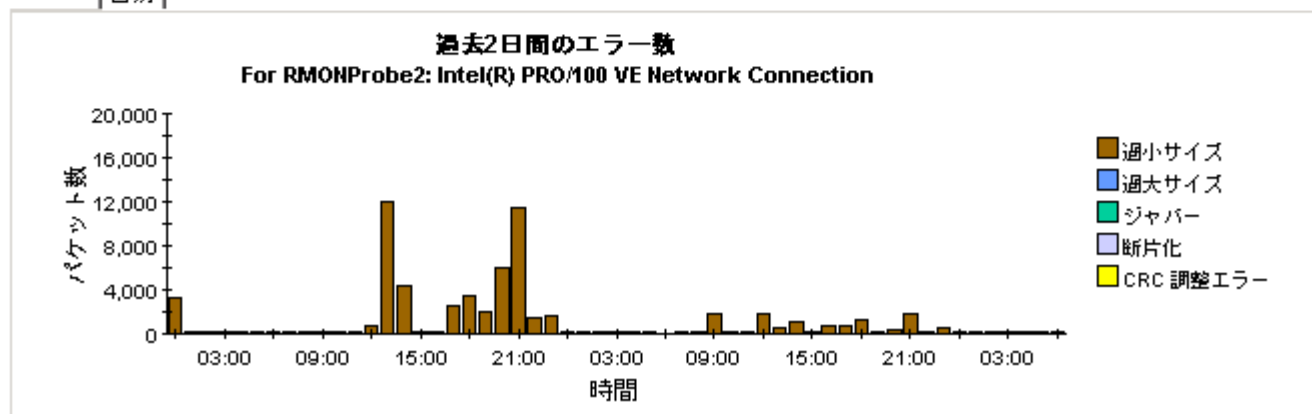
このレポートは、昨日のインターフェースのパフォーマンスに基づいて、インターフェースを選択することを可能にします。選択テーブルの下のグラフは、選択されたインターフェースに関して、過去24時間および過去7日間のデータを表示します。エラーパケット率(%)は、エラーが発生したとみなされてカウントされたすべてのパケットの割合です。エラーパケットのうち、% Fragはフラグメントがあった割合で、% CRC Align、% Under、% Over、% Jabbersも同様です。ドロップイベントは、RMONエージェントがカウンタを維持できず、パケットのセットを監視せざるを得なかったことを意味します。

昨日からのインターフェースデータ

| デバイス | インターフェース | パケット | % エラーパケット | % 断片化 | % CRCAlign | % 過小 | % 過大 | % ジャババー |
|------------|----------|-----------|-----------|-------|------------|------|------|---------|
| RMONProbe2 | 3 | 921,093 | 1.42157 | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/24 | 825,180 | 0.07186 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| Router1 | 1/1 | 463,710 | 0.00173 | 38 | 62 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 1/1 | 0 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 1/2 | 0 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/1 | 410,273 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/2 | 463,736 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/3 | 0 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/4 | 0 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/5 | 1,088,917 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/6 | 710,373 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/7 | 225,447 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Router2 | 3/8 | 767,170 | 0.00000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

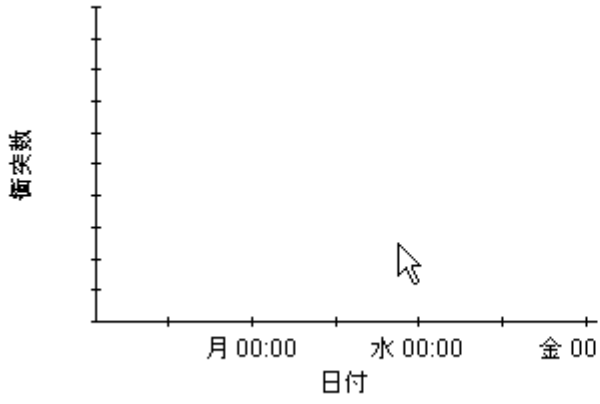
| 製造元 | モデル | カスタマ | AdminStatus | プロトコル | 速度 |
|-----------------|---------|------|-------------|-----------------|------------|
| Network Harmoni | Unknown | Acme | Up | ethernet-osaacd | 100.0 Kbps |

時間別 | 日別

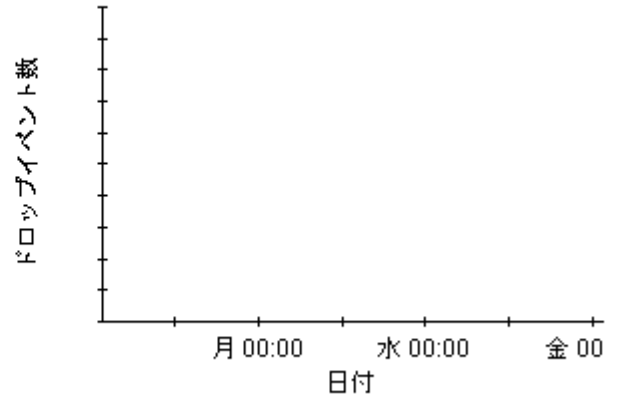




過去31日間のパケット衝突数



過去31日間のプローブドロップイベント



RMON イーサネット統計

エラー履歴レポート



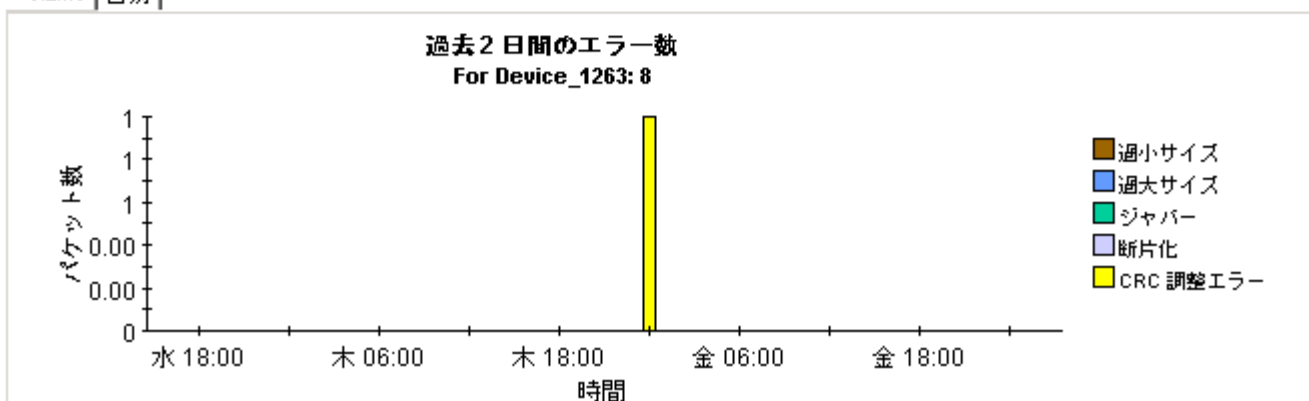
このレポートは、昨日のインターフェースのパフォーマンスに基づいて、インターフェースを選択することを可能にします。選択テーブルの下のグラフは、選択されたインターフェースに関して、過去数時間および過去数日間のデータを表示します。エラーパケット率(%)は、エラーが発生したとみなされてカウントされたすべてのパケットの割合です。エラーパケットのうち、% Frag はフラグメントがあった割合で、% CRC Align、% Under、% Over、% Jabbers も同様です。ドロップイベントは、RMON エージェントがカウンタを維持できず、パケットのセットを無視せざるを得なかったことを意味します。

昨日からのインターフェースデータ

| デバイス | インタフェース | パケット | % エラーパケット | % 断片化 | % CRCAlign | % 過小 | % 過大 | % ジャババー |
|-------------|---------|------------|-----------|-------|------------|------|------|---------|
| Device_1263 | 8 | 1 | 100.00000 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1293 | 10 | 20,575,326 | 12.06186 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1243 | 102 | 32,595,144 | 8.02741 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1301 | 1003 | 105,883 | 7.17679 | 46 | 54 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1294 | 1003 | 105,885 | 7.17665 | 46 | 54 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1294 | 1006 | 258,201 | 7.11771 | 95 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1301 | 1006 | 258,219 | 7.11721 | 95 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1265 | 21 | 286,785 | 6.98537 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1247 | 1014 | 1,456,458 | 3.86616 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1246 | 1014 | 1,456,459 | 3.86616 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1293 | 8 | 542,695 | 3.66283 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1293 | 6 | 829,206 | 2.51337 | 94 | 6 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1263 | 200 | 325,932 | 1.65280 | 99 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| Device_1293 | 12 | 854,523 | 1.55572 | 7 | 93 | 0 | 0 | 0 |

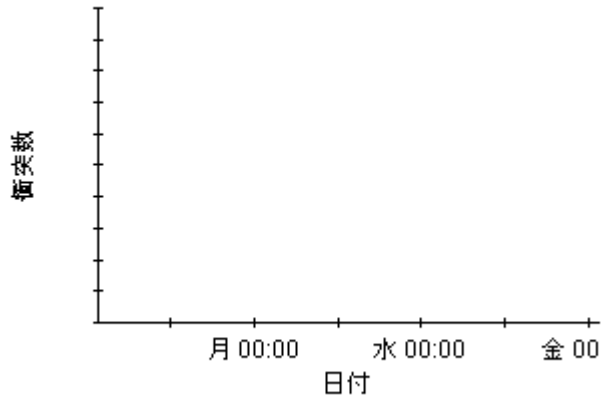
| 製造元 | モデル | カスタマ | AdminStatus | プロトコル | 速度 |
|------------------|--------|---------------------|-------------|-----------------|----------|
| Foundry Networks | Router | Customer Unassigned | Up | gigabitEthernet | Not set. |

時間別 | 日別

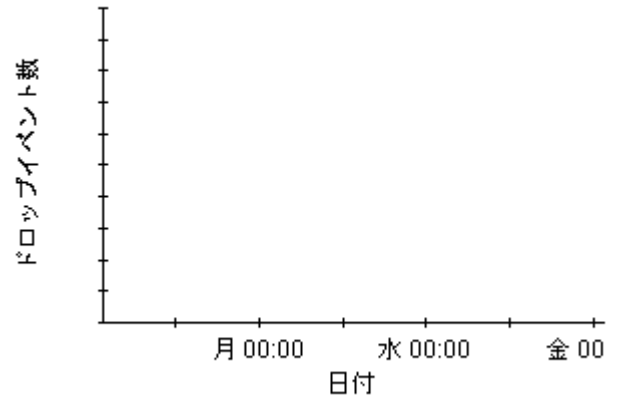




過去31日間のパケット衝突数



過去31日間のブロードドロップイベント



RMONイーサネット統計

ドロップイベントレポート



このレポートは、各カスタマごとに1つのエントリがあり、各RMONイーサネット統計が有効になっているデバイスについて集められたドロップイベントに関する情報を表示します。'DropEvent'は次のように定義されています。「リソース不足によりパケットがプローブによりドロップされたイベントの総数です。この数は必ずしもドロップされたパケットの数ではないことに注意してください。これは単にこの条件が見知された回数です」レポートの制約を変更して、表示されるインターフェースの数を制限します。昨日ポーリングされたデバイスだけが表示されます。

| カスタマ | カスタマ ID |
|------|---------|
| Acme | 1 |

選択したカスタマに関するデバイス 昨日のDropEvents

| デバイス | 製造元 | モデル | ドロップイベント |
|------------|-----------------|---------|----------|
| RMONProbe2 | Network Harmoni | Unknown | 40 |

RMONProbe2に対応するインターフェース 制約を変更してリストを変更

| インターフェース | etherStatsIndex | AdminStatus | プロトコル | 全/半 | 速度 | ドロップイベント |
|----------|-----------------|-------------|-----------------|-----|------------|----------|
| 3 | 1 | Up | ethernet-csmacd | H | 100.0 Kb/s | 40 |

RMONイーサネット統計

インベントリレポート



このレポートは、各カスタマにつき1つのエントリがあり、RMONイーサネット統計データをサポートする提供されたインタフェースに関するインベントリ情報
を表示します。レポートの制約を変更して、表示されるインタフェースの数を制限します。昨日ポーリングされたインタフェースのみが表示されます。

| カスタマ | カスタマ ID |
|------|---------|
| Acme | 1 |

選択したカスタマに関するデバイス

| デバイス | 製造元 | モデル | sysDescr |
|------------|-----------------|----------|------------|
| RMONProbe2 | Network Harmoni | Unknown | RMONProbe2 |
| Router1 | Cisco | WS-C5000 | |
| Router2 | Cisco | WS-C5500 | |

選択されたデバイスに対応するインタフェース RMONProbe2: RMONProbe2

| インタフェース | etherStatsIndex | AdminStatus | プロトコル | 全/半 | 速度 | 場所 |
|---------|-----------------|-------------|-----------------|-----|------------|--------|
| 3 | 1 | Up | ethernet-osaacd | H | 100.0 Kb/s | Reston |

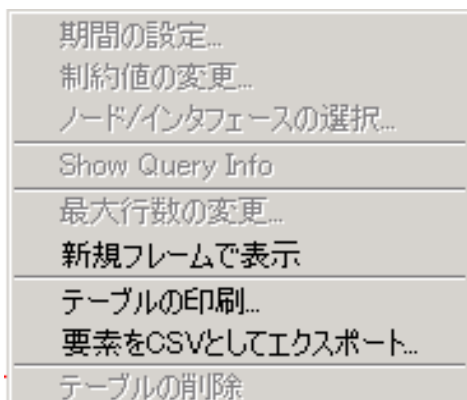
A テーブルとグラフの編集

テーブルやグラフは複数の方法で表示することができます。通常はデフォルトのビューで十分ですが、別のビューに変更するのは簡単です。レポートビューアを使っている場合には、オブジェクトを右クリックすると、ビューオプションの一覧が開きます。Web アクセスサーバーを使用している場合には、次の手順に沿って、テーブルやグラフのデフォルトビューを変更してください。

- 1 リンクバーの **[設定]** をクリックします。
- 2 ナビゲーションフレームの **[レポート]** を展開します。
- 3 **[表示]** をクリックします。
- 4 **[要素編集の許可]** ボックスを選択します。
- 5 **[適用]** をクリックします。
- 6 テーブルまたはグラフの横の **[編集]** アイコンをクリックします。

テーブルのビューオプション

テーブルを右クリックすると、あるいは、Web アクセスサーバー使用時に **[Edit Table]** アイコンを選択すると、テーブルビュー オプションの一覧が開きます。



相対時間範囲（現在からの）を変更したり絶対時間範囲を設定するには、**[期間の設定]** を選択してください。[期間の設定] ウィンドウが開きます。

テーブルに表示する対象の期間を、たとえば 42 日から 30 日や 7 日に、短縮することができます。過去のある日から昨日以前の日までの具体的な期間を指定したい場合には、**[絶対時間の使用]** をクリックし、**[開始時刻]** と **[終了時刻]** を選択します。

制約を緩くあるいは厳しくして、制約を満たす要素の数を増やしたり減らしたりするには、**[制約値の変更]** を選択してください。[制約値の変更] ウィンドウが開きます。制約を緩くするには値を小さく、制約を厳しくするには値を大きく設定します。

[ノード/インタフェースの選択]を選択すると、テーブルの対象を特定のノードや、特定のインタフェース、ノードやインタフェースの特定のグループに制限して、テーブルのスコップを変更することができます。[ノードの選択タイプを選択します]ウィンドウが開きます。

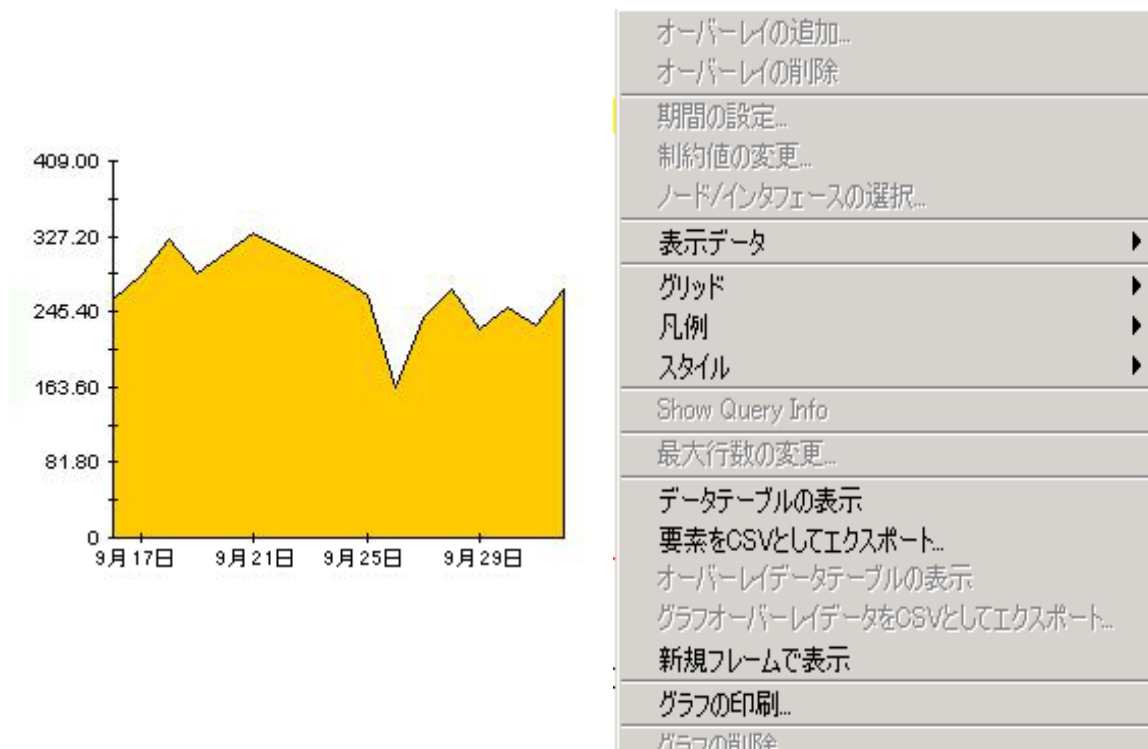
[最大行数の変更]を選択すると、テーブルに表示する行数を増やしたり減らしたりすることができます。デフォルトは50です。デフォルトより大きい値を指定すると、テーブルを開くのにかかる時間が長くなる場合があります。大規模なネットワークの場合には、デフォルト値を使うとテーブルが最も速く開きます。

[新規フレームで表示]を選択すると、次の図のように、テーブルが[テーブルビューA]ウィンドウ内に開きます。必要に応じてウィンドウのサイズを調整し、テーブル内のデータを読みやすくしてください。

| ポーリングされたIP QoS統計データ - 入力 | | | | |
|--------------------------|-----|---------------|----------------|---------------------|
| 過去6時間 | | | | |
| 方向 | 優先度 | スイッチ処理されたバイト数 | スイッチ処理されたパケット数 | 期間 |
| 入力 | 0 | 105,688 | 675 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 1 | 0 | 0 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 2 | 0 | 0 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 3 | 0 | 0 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 4 | 0 | 0 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 5 | 0 | 0 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 6 | 600 | 5 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 7 | 0 | 0 | Tue Oct 29 07:00 AM |
| 入力 | 0 | 98,334 | 638 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 1 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 2 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 3 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 4 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 5 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 6 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 7 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:45 AM |
| 入力 | 0 | 97,539 | 648 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 1 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 2 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 3 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 4 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 5 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 6 | 120 | 1 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 7 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:30 AM |
| 入力 | 0 | 90,744 | 564 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 1 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 2 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 3 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 4 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 5 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 6 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 7 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:15 AM |
| 入力 | 0 | 103,775 | 656 | Tue Oct 29 06:00 AM |
| 入力 | 1 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:00 AM |
| 入力 | 2 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:00 AM |
| 入力 | 3 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:00 AM |
| 入力 | 4 | 0 | 0 | Tue Oct 29 06:00 AM |

グラフのビューオプション

グラフを右クリックすると、あるいは、Web アクセスサーバー使用時に [グラフの編集] アイコンを選択すると、次のようなビューオプションの一覧が開きます。



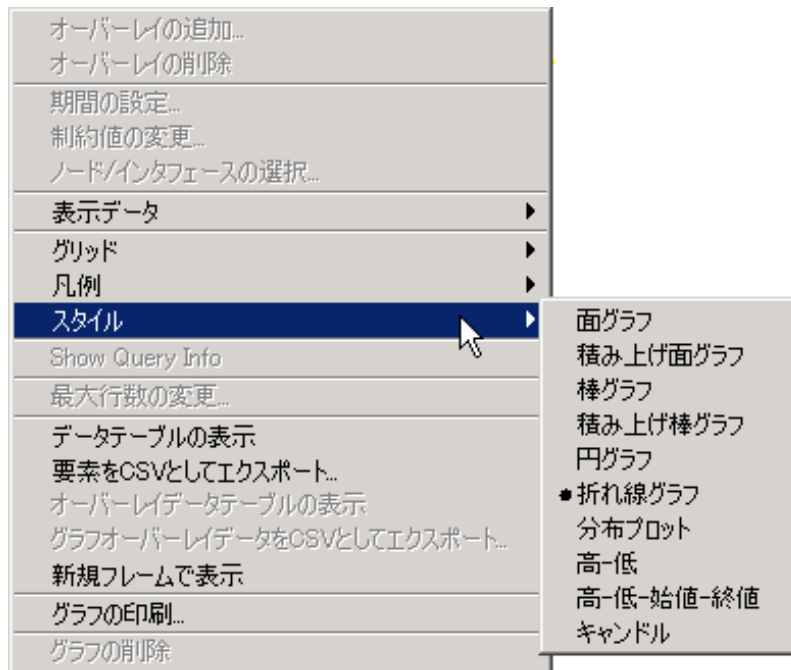
次の表では、各オプションの詳細について説明します。

| オプション | 機能 |
|----------------------|----------------------------------------------------------------|
| [期間の設定] | 上述のテーブルオプションの機能と同じ |
| [制約値の変更] | 上述のテーブルオプションの機能と同じ |
| [ノード / インタフェースの選択] | 上述のテーブルオプションの機能と同じ |
| [表示データ] | グラフ上のそれぞれの点について、データをスプレッドシートに表示する |
| [グリッド] | 次のグリッド線をグラフに追加する X 軸のグリッド線 Y 軸のグリッド線 X 軸および Y 軸のグリッド線 |
| [凡例] | レジェンド (凡例) を削除または移動する |
| [スタイル] | 下記の図を参照 |
| [最大行数の変更 ...] | 上述のテーブルオプションの機能と同じ |
| [データテーブルの表示] | 下記を参照 |

| オプション | 機能 |
|-------------------------|------------------------|
| [要素を CSV としてエクスポート ...] | 上述のテーブルオプションの機能と同じ |
| [新規フレームで表示] | [グラフビューア] ウィンドウにグラフを開く |
| [グラフの印刷] | 上述のテーブルオプションの機能と同じ |

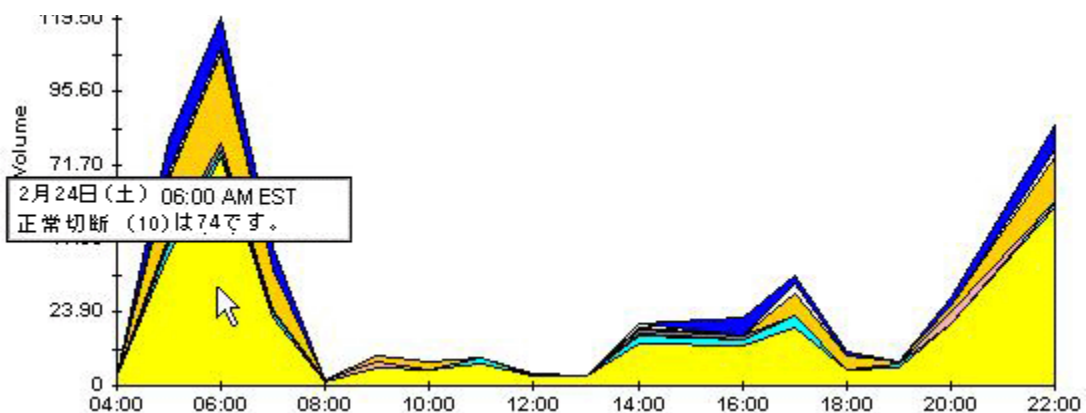
スタイルオプション

[スタイル] を選択すると、グラフの 7 つのビューオプションの一覧が表示されます。



[スタイル]>[面グラフ]

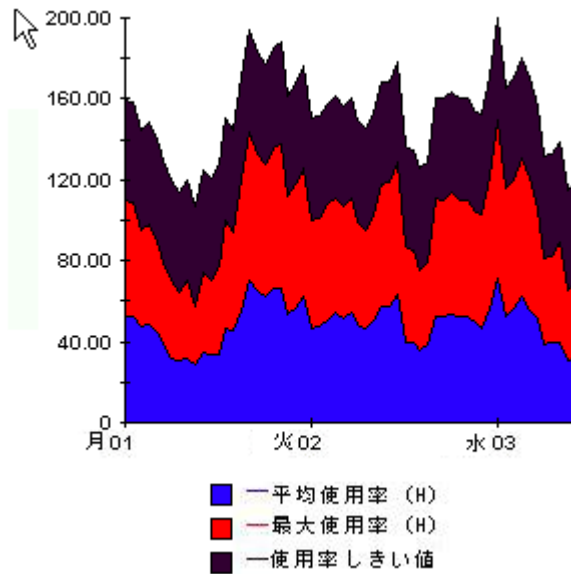
線グラフや棒グラフを面グラフに変更します。このフォーマットでは、相対値や合計値は見やすくなりますが、小さなデータ型の絶対値は見にくい場合があります。色の帯の任意の場所をクリックすると、その場所の正確な値が表示されます。



グラフの期間を短くするには、[Shift] + [Alt] キーを押し、マウスの左ボタンで注目したい期間をハイライトします。マウスボタンを離すと、選択した期間が表示されます。

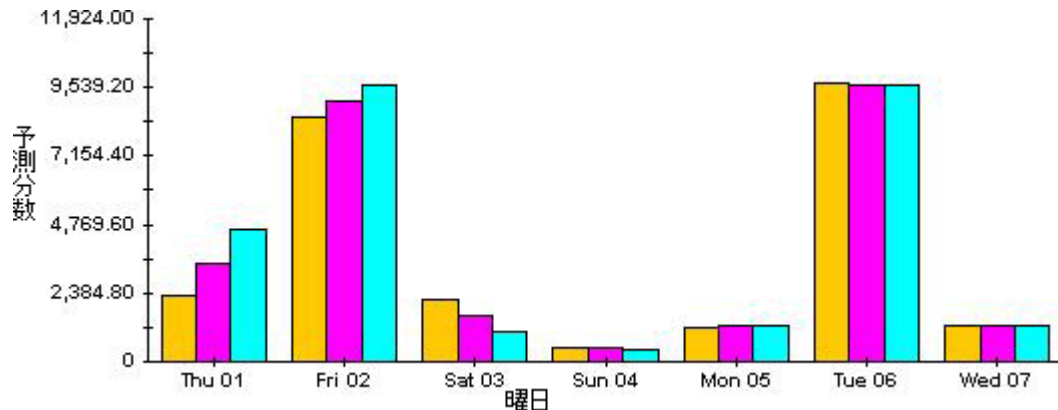
[スタイル]>[積み上げ面グラフ]

面グラフや線グラフを積み上げ面グラフに変更します。このビューは、少数の変数を表示するのに適しています。



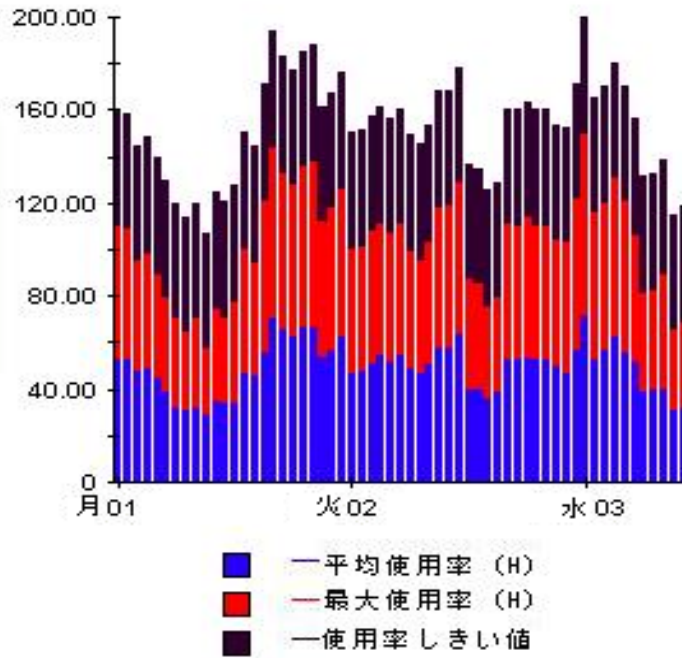
[スタイル]>[棒グラフ]

グラフを棒グラフに変更します。このビューは、少数の変数の比較的等しい値を表示するのに適しています。次のグラフには3つの変数が表示されています。



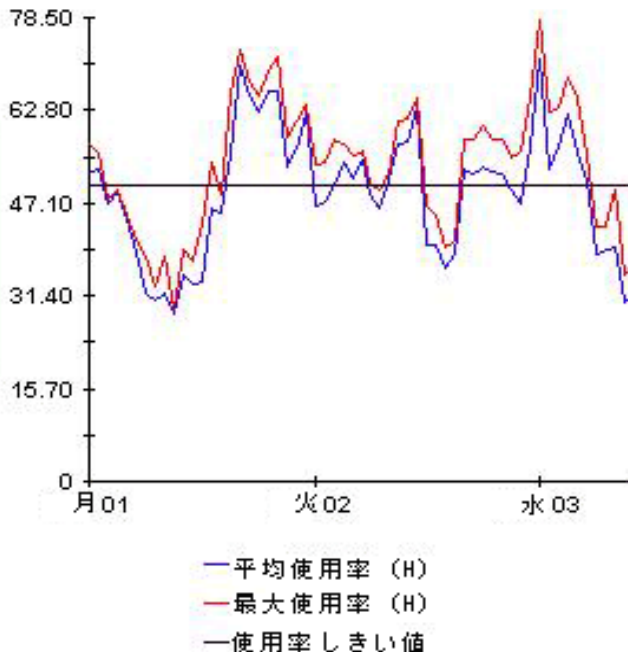
[スタイル]>[積み上げ棒グラフ]

線グラフや面グラフを積み上げ棒グラフに変更します。フレームの幅を広げると、時間の目盛りは1時間単位になります。フレームの高さを広げると、呼び出しボリュームが10単位で表示されます。



[スタイル]>[折れ線グラフ]

面グラフの色の帯を線に変更します。フレームの幅を調整すると、データポイントを時間単位にすることができ、フレームの高さを調整すると、呼び出しボリュームを整数にすることができます。



[スタイル]>[円グラフ]

面グラフを円グラフに変更します。面グラフの帯が円グラフの1つの区切りになり、円グラフ全体が24時間を表すようになります。このビューが役に立つのは、表示するデータ値の数が少なく、対象のデータが1日分の場合です。



複数の日のデータを見る場合には、1日につき1つの円グラフが、複数表示されます。

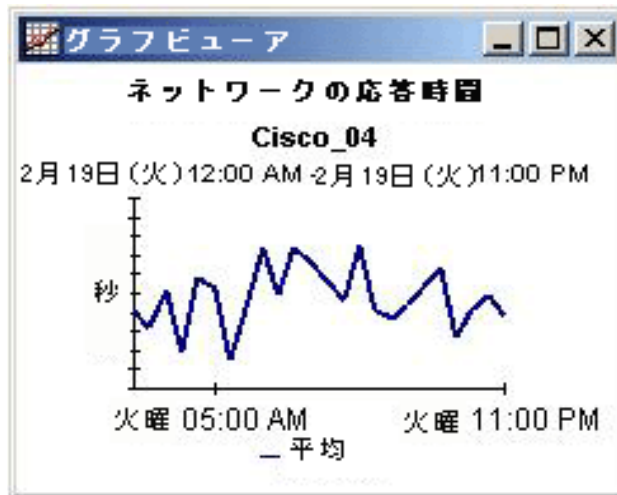
[データテーブルの表示]

このオプションを選択すると、グラフがスプレッドシートに変わります。

| X Axis | 平均 |
|----------------|-------|
| Tue Feb 19 ... | 0.809 |
| Tue Feb 19 ... | 0.621 |
| Tue Feb 19 ... | 1.026 |
| Tue Feb 19 ... | 0.362 |
| Tue Feb 19 ... | 1.171 |
| Tue Feb 19 ... | 1.051 |
| Tue Feb 19 ... | 0.284 |
| Tue Feb 19 ... | 0.826 |
| Tue Feb 19 ... | 1.483 |
| Tue Feb 19 ... | 0.967 |
| Tue Feb 19 ... | 1.471 |
| Tue Feb 19 ... | 1.308 |
| Tue Feb 19 ... | 1.123 |
| Tue Feb 19 ... | 0.93 |
| Tue Feb 19 ... | 1.497 |

[新規フレームで表示]

グラフが [グラフビューア] ウィンドウ内に開きます。ウィンドウのサイズを調整して読みやすくしてください。



用語集

オーバーサイズの packets

1518 オクテットよりも長い、それ以外は正しい構成で受信したパケットの数。

オクテット

8 ビット。混乱を避けるため用語「バイト」の代わりに用語「オクテット」を使用する場合があります。これは、すべてのコンピュータが 8 ビット長のバイトを使用するとは限らないからです。RMON Ethernet Statistics パッケージのレポートには、LAN セグメント上のオクテット数が示されます。

コリジョン

コリジョンとは、同じイーサネットネットワーク上の 2 つのデバイスが、まったく同時にデータを送信しようとしたときに起こります。

ジャバ

1518 オクテットよりも長く、かつ配置エラーが含まれたパケット。

ドロップイベント

ポートでのオーバーラン。RMON ポートは、全回線速度でトラフィックを受信して処理することができなかった場合に、カウンタからいくつかのパケットを切り捨てる必要があります。ドロップイベントの変更は、RMON のインフラストラクチャに重負荷がかかることによって生じる場合があります。

パケット

ネットワーク上で伝送するためにフォーマットされるデータの単位。データは、パケット交換ネットワーク上で送信するためにパケットに分割されます。パケット数は廃棄率とともに表示されます。

フラグメント

パケットの断片。ネットワーク上に送信された通信パケットは、一時的にフラグメントに分割することが必要な場合があります。パケットは宛先で再構築されます。

ブロードキャストパケット

イーサネット上のすべてのホストに送信されるパケット。RMON Ethernet Statistics パッケージのレポートには、ブロードキャストパケットと他のタイプのパケットとの割合（パーセント）が示されます。

ポート

MIB-II をサポートする任意のネットワークデバイス上に存在する、任意のフレームリレーインタフェース。

マルチキャストパケット

ネットワーク上の単一の送信者と複数の受信者間の通信。RMON Ethernet Statistics パッケージのレポートには、マルチキャストパケットと他のタイプのパケットとの割合（パーセント）が示されます。

索引

C

Change Protocol Defaults フォーム , 24
Change Threshold フォーム , 21
collection_manager, 14
Common Property Tables のアップグレードパッケージ , 14

G

group_manager, 14

O

OVPI からのプロパティデータのエクスポート , 21

R

RMON_EtherStats_exportdata.pro, 21
RMON_EtherStats_importdata.pro, 21

あ行

インベントリレポート , 31
エラー履歴レポート , 30

か行

カスタマ固有のレポート , 10
グラフのスタイルオプション , 47
グリッドオプション , 47
グループフィルター , 10

さ行

最大行数の変更オプション , 47
システムクロック , 28
準リアルタイムエラーレポート , 30
新規フレームで表示 , 46
絶対時間の使用 , 45

た行

[データテーブルの表示], 47
データテーブルまたはプロパティテーブルのカスタムビュー , 15
データパイプマネージャ , 15
デモパッケージ , 11
ドロップイベント , 53
ドロップイベントのレポート , 30

は行

バージョン履歴 , 9
パケットサイズの準リアルタイム分布 , 29
パケットサイズの履歴分布 , 29
パラメータの編集 , 10
表示されたデータオプション , 47
ブロードキャスト + マルチキャストパケットの準リアルタイム分析 , 29
ブロードキャスト + マルチキャストパケットの履歴分析 , 29
ブロードキャスト / マルチキャストしきい値 , 22
ブロードキャストパケット , 53
プロパティインポートファイル , 21
プロパティデータのインポート , 21
ポーリングポリシー , 14, 28

ま行

マルチキャストパケット , 53

ら行

レジェンド (凡例) オプション , 47

